第17回 人文学・社会科学特別委員会

資料３
科学技術・学術審議会　学術分科会
人文学・社会科学特別委員会（第17回）
令和５年７月２５日

人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト

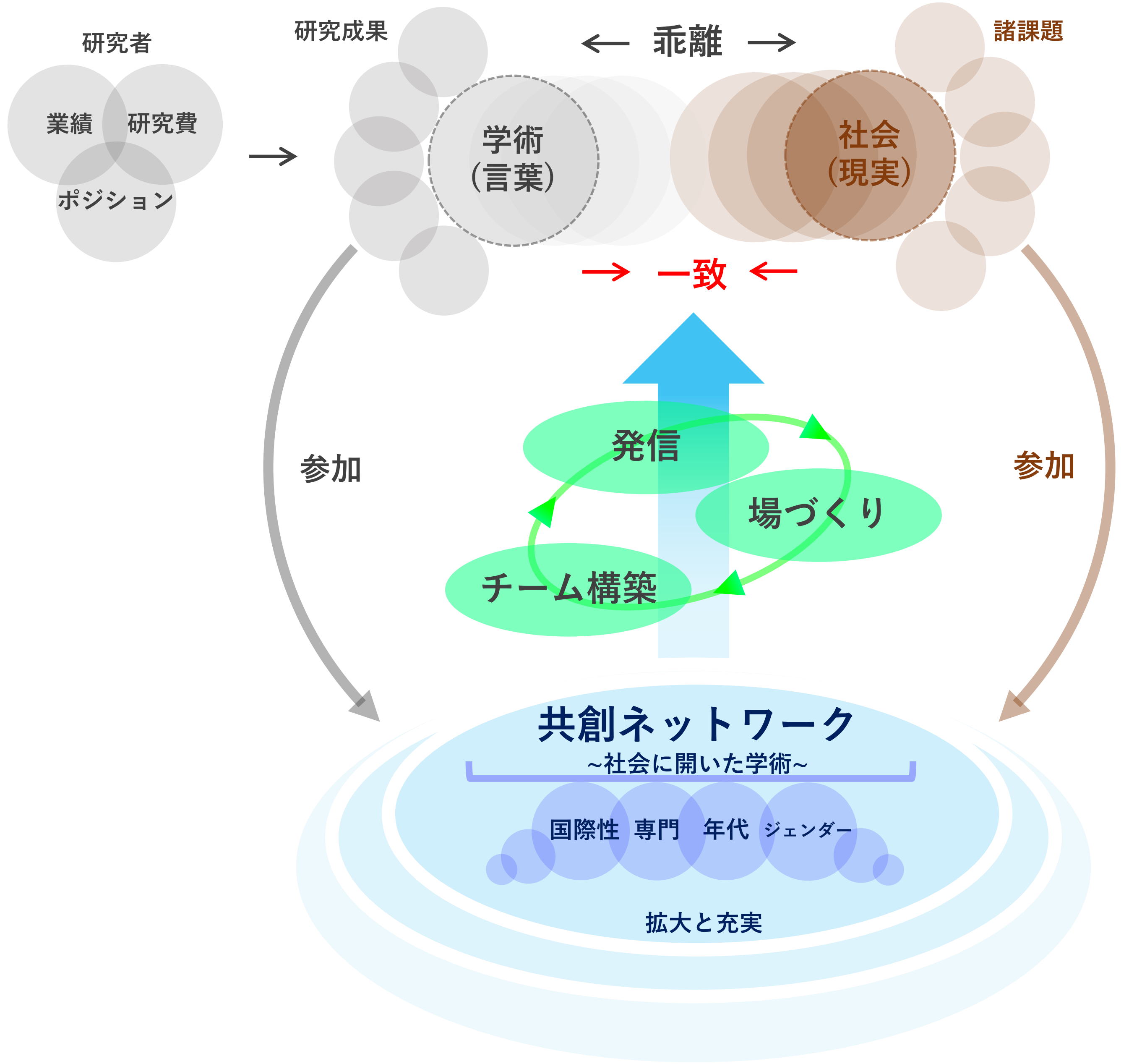
2020年度～2022年度の活動報告

2023年7月25日

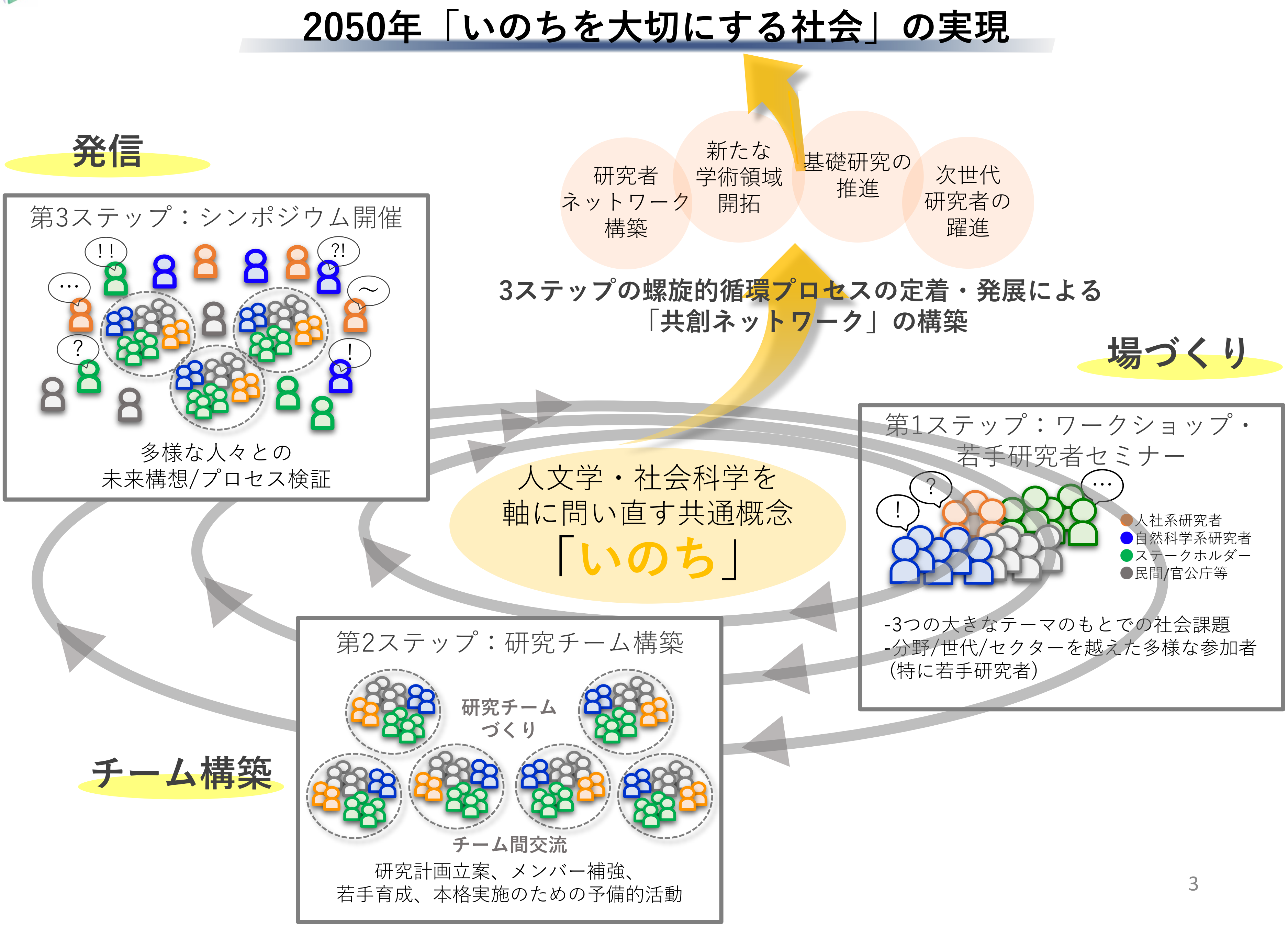
大阪大学総長補佐
社会ソリューションイニシアティブ長

堂目卓生

問題意識：学術と社会 ~乖離から一致へ~



プロジェクトの進め方


2050年「いのちを大切にする社会」の実現
研究者ネットワーク構築
新たな学術領域開拓
基礎研究の推進
次世代研究者の躍進
3ステップの螺旋的循環プロセスの定着・発展による
「共創ネットワーク」の構築
発信
第3ステップ：シンポジウム開催
!!
?!
…
〜
?
!
多様な人々との
未来構想/プロセス検証
人文学・社会科学を
軸に問い直す共通概念
「いのち」
場づくり
第1ステップ：ワークショップ・若手研究者セミナー
?
!
…
人社系研究者
自然科学系研究者
ステークホルダー
民間/官公庁等
-3つの大きなテーマのもとでの社会課題
-分野/世代/セクターを越えた多様な参加者
(特に若手研究者)
チーム構築
第2ステップ：研究チーム構築
研究チームづくり
チーム間交流
研究計画立案、メンバー補強、
若手育成、本格実施のための予備的活動

プロジェクトのあゆみ

３つの大きなテーマ

将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
　代表者：大竹文雄（大阪大学感染症研究教育拠点特任教授）

分断社会の超克
　代表者：稲場圭信（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

新たな人類社会を形成する価値の創造
　代表者：出口康夫（京都大学大学院文学研究科教授）

▶期間中の主な取り組み(ワークショップ, インタビュー, シンポジウム)

R2年度(2020.10)~ R4年度(2023.3)	2020. 10~12	2021. 1~3	2021. 4~6	2021. 7~9	2021. 10~12	2022. 1~3	2022. 4~6	2022. 7~9	2022. 10~12	2023. 1~3
将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方		WS01		WS04		WS07	WS10（3テーマ合同）			WS12
分断社会の超克		WS03		WS06		WS09				WS13
新たな人類社会を形成する価値の創造		WS02		WS05		WS08		WS11		
インタビュー -対談インタビュー(記事) -WS10展開インタビュー(動画)			対談01	対談02 対談03 対談04	対談05			展開01 展開02		展開03 展開04
シンポジウム		シンポジウム				シンポジウム				シンポジウム

論点分析

動画アーカイブ

展開

動画

ワークショップ

	テーマ*	日時	タイトル	形式/参加人数
WS01	分断社会	2021.1.24	分断社会の超克－共感・共創・共生	オンライン (41)
WS02	価値創造	2021.1.25	AIと倫理	オンライン (28)
WS03	人口動態	2021.2.9	ワークライフバランス	オンライン (34)
WS04	人口動態	2021.8.30	コロナ対策を再考する	オンライン (22)
WS05	価値創造	2021.9.6	スマートディストピア!?	オンライン (19)
WS06	分断社会	2021.9.13	専門知をめぐる格差	オンライン (30)
WS07	人口動態	2022.3.7	政策と専門知－市民・現場・対応	オンライン (26)
WS08	価値創造	2022.3.17	VULNERABILITY－AI・ロボット・サイボーグと”ひと”	オンライン (48)
WS09	分断社会	2022.3.22	平和へのアプローチ	オンライン (43)
WS10	3テーマ合同	2022.5.16	いのちを大切にする社会を目指して－学術知と大学の役割	収録
WS11	価値創造	2022.8.25	新たな価値の創造を求めて－"わたし"と"われわれ"の境、人間と人工物の境を問い直す～	収録
WS12	人口動態	2023.1.13	政策形成過程における専門家のあり方	収録/ハイブリッド
WS13	分断社会	2023.1.24	ビジネスと人権	収録/ハイブリッド (海外参加含む)

ワークショップでの論点①

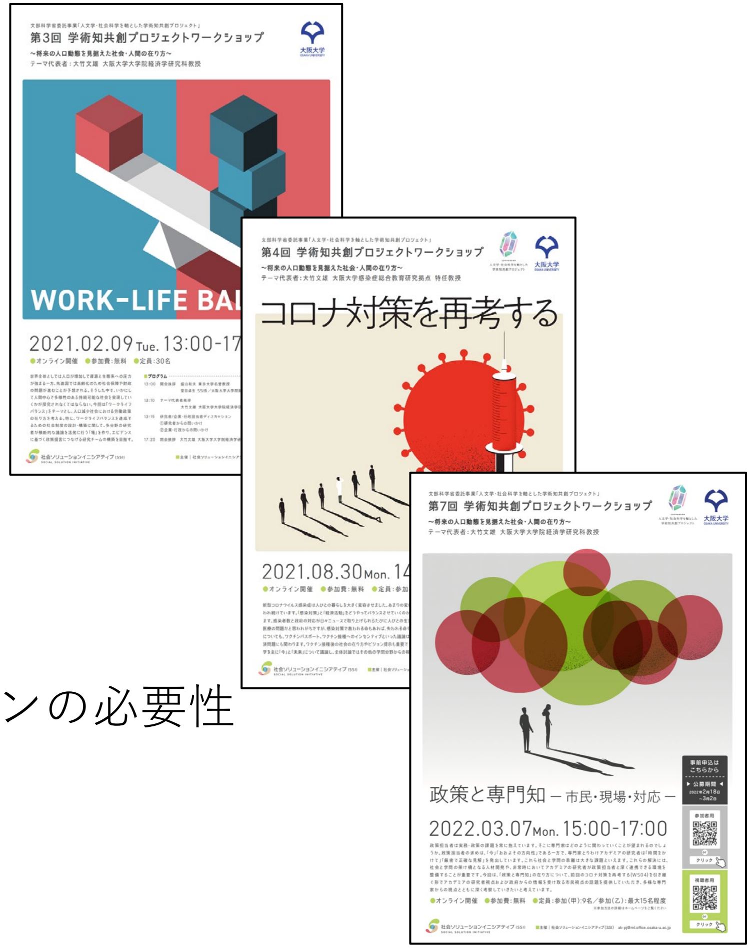
将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方

◆WS03「ワークライフバランス」
推進のために必要な風土と制度
労務政策のあり方
産官学協働のあり方

◆WS04「コロナ対策を再考する」
喫緊の問題に対する学術知の有効性
政府から国民への情報発信における諸課題
国・地方自治体のガバナンスのあり方

◆WS07「政策と専門知―市民・現場・対応」
社会変容に対する学問間のコミュニケーションの必要性
社会に対する専門知の情報発信のあり方
国や地方自治体への専門家の関わり方

◆WS12「政策形成過程における専門家のあり方」
有事の政策形成過程に対する専門家の姿勢や動員体制
政策決定過程と説明責任の構造的課題
価値観の言語化と政策選択に対する専門家の関わり方



ワークショップでの論点②

分断社会の超克

◆WS01「分断社会の超克 ~ 共感・共創・共生」
　共感と分断との関わり
　科学と文化、社会と文化の分断
　分断を越える科学コミュニケーションの現状と課題

◆WS06「専門知をめぐる格差」
　共生を実現するための「知」とは
　対立を乗り越えていくための専門家の関わり方
　知と智恵のハイブリッドの創出

◆WS09「平和へのアプローチ」
　補完行政や難民支援等の取組に対する学術の役割
　平和構築に向けて学術が持つ仲保者的な役割
　専門知と経験知による相互補完的なコミュニティの構築

◆WS13「ビジネスと人権」
　「伝わらない」「噛み合わない」問題意識の改善
　企業とステークホルダーの関係の見える化
　幹部の気づきをアクセラレートする方法

ワークショップでの論点③

新たな人類社会を形成する価値の創造

◆WS02「AIと倫理」
　パラヒューマン社会の未来図
　シンギュラリティ問題と実存の危機
　AI倫理綱領の構想

◆WS05「スマートディストピア!?」
　スマート化・標準化における人間の多様性
　スマート化がもたらす格差拡大の回避方法
　個人の機能強化が強調される中でのコミュニティの意義

◆WS08「VULNERABILITY―AI・ロボット・サイボーグと“ひと”」
　「ひと」が持つバルネラビリティ（できなさ）の本質
　AI・ロボットなどの異質な存在の位置付け
　技術の発展過程における学問間のコミュニケーション

◆WS11「新たな価値の創造を求めて－"わたし"と“われわれ”の境、人間と人工物の境を問い直す」
　IからＷＥへの意識変容
　人工物は人格を持てるか
　人工物を含んだWE、その関係を支える価値

ワークショップでの論点④

３つの大きなテーマ合同のワークショップ

◆WS10「いのちを大切にする社会を目指して－学術知と大学の役割」

いのちの「脆弱さ」(バルネラビリティ)を基礎に置いた新しい価値

オープンなコミュニティを形成する上で超克すべき分断

分断を乗りこえるためのコミュニケーションのあり方

シンポジウム①

日時		テーマ	参加人数
R2年度	2021.3.16	命に向き合う知のつながり－未来を構想する大学	オンライン(500名)
R3年度	2022.2.15	未来につなぐ知－公共の要としての大学	オンライン(230名)
R4年度	2023.3.10	いのちを大切にする知－価値の創出と共有に向て	

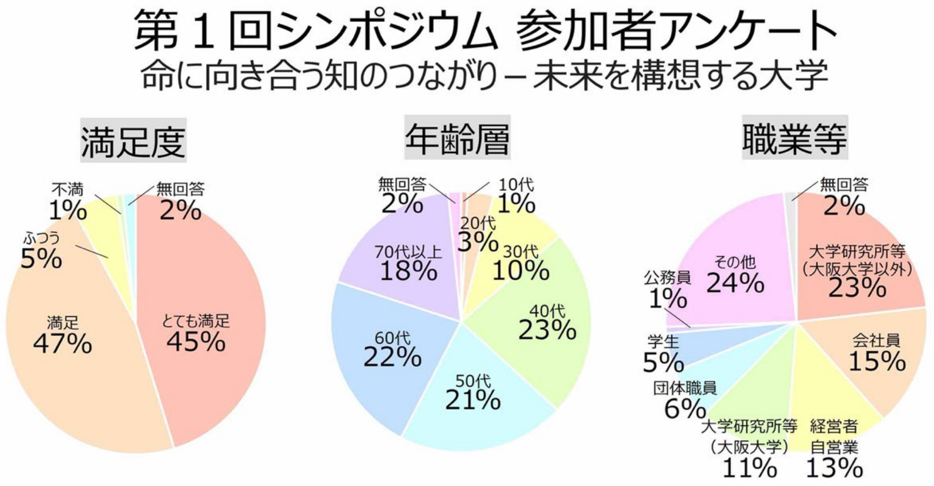
◆2020年度：「命に向き合う知のつながり－未来を構想する大学」

【登壇者】

・鷲田清一　大阪大学元総長・名誉教授(基調講演：「学問と社会 再論)
・堂目卓生　大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長
・出口康夫　京都大学人社未来形発信ユニット長
・田口 茂　 北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター長
・大竹尚登　東京工業大学未来社会DESIGN機構副機構長
・佐藤 勲　 東京工業大学未来社会DESIGN機構機構長
・小林信一　広島大学副学長
・井野瀬久美恵　甲南大学文学部教授(モデレーター)

【論点】

#1 市民からの信頼と知性の公共的使用
#2 社会に開き、つながる大学
#3 何のために共創するのか
#4 根本的で単純な問いの必要性
#5 無知と困難の中での格闘



シンポジウム②

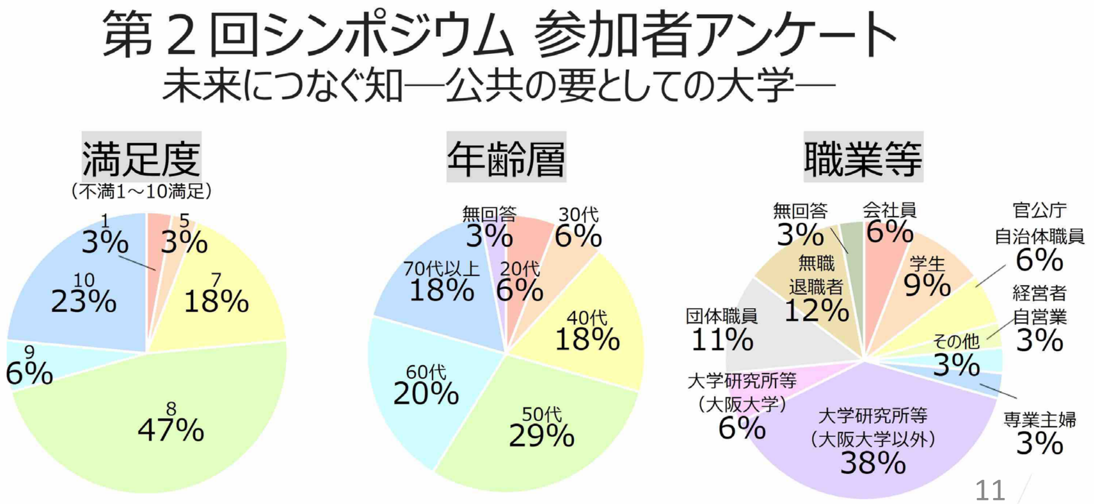
◆2021年度：「未来につなぐ知－公共の要としての大学」

【登壇者】

- 石原明子　熊本大学大学院人文社会科学研究部 准教授
- 西田亮介　東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授
- 福本江利子　広島大学大学院人間科学研究科 特任助教
- 小野 悠　豊橋技術科学大学建築都市システム学系 准教授
- 多湖真琴　株式会社メルカリR4Dオペレーションズマネージャー
- 標葉隆馬　大阪大学社会技術共創センター 准教授(モデレーター)

【論点】

#1 知識と知恵の生産様式の違い
#2 長期的な視点の必要性
#3 自明とは考えられていない大学の公共性
#4 見えづらい学術的価値や連携の効果
#5 制度や評価の責任ある設計

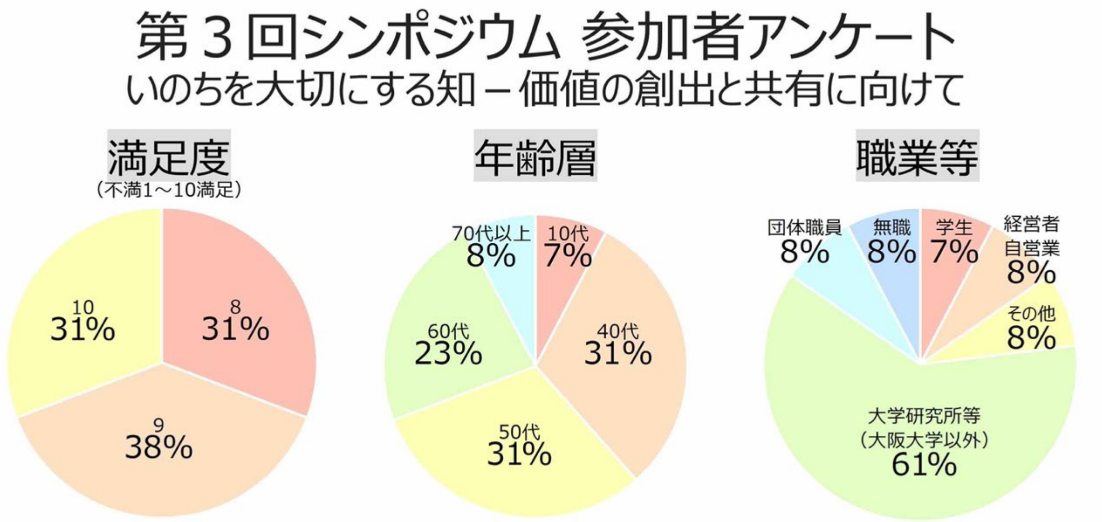


シンポジウム③

◆2023年度：「未来につなぐ知－公共の要としての大学」

【登壇者】
・田口茂　北海道大学人間知×脳×AI研究センター長・大学院文学研究科教授
・小林信一　　広島大学副学長・大学院人文社会科学研究科長
・白波瀬佐和子　　東京大学大学院人文社会系研究科教授
・堂目卓生　　大阪大学SSI長・大学院経済学研究科教授(モデレーター)

【論点】
#1 いのちを大切にするための価値とは
#2 創出と共有のためになすべきことは何か
#3 学術や大学の役割は何か



インタビュー①(対談)

◆対談01：盛山和夫「社会への応答は人文・社会科学の本来の意義」

純粋な経験科学ではない社会科学
人間行動の傾向を問うことが重要
今の社会をつくっている思想を反省する

◆対談02：中野民夫「自らの内と外とを往還する人文知・社会知へ向けて」

自分の内側につながる社会課題
参加者自身でアップデートする場づくり
相手の真価を認める深い理解が必要

◆対談03：岡部美香「生きていることへの真摯さが理論と実践をつなぐ」

「知らないわけではないが、きちんと知っているわけでもない」ことの自覚
価値を揺さぶる異質な他者との出会いと交流
とりこぼしているものに対する真摯な眼差し

◆対談04：広井良典「様々な主体との出会いが呼び起こす「学」と「観」の再融」

有限な地球環境と生命から無限の価値を創造する
環境・福祉・経済が並び立つ持続可能な福祉社会を
コスモロジー（観）と科学（学）の再融合

◆対談05：標葉隆馬「知識生産が真に社会的脆弱性(バルネラビリティ)を解消する行為であるために」

バルネラビリティを解消する営みとしての知識生産
組織間コミュニケーションを通じた知識生産のガバナンス
科学研究の現場への伴走者としての人文学者、社会科学者

インタビュー②(WS10の展開)

◆展開01：田口茂（北海道大学 人間知×脳×AI研究教育センター長）
測れない価値を共有するものとしての共同体
価値を見出すきっかけとしての「媒介」
一人称の視点を超えてあらゆるものとつながるゼロ人称の視点

◆展開02：広井良典（京都大学 人と社会の未来研究院教授）
農村型から都市型に移行すべき日本のコミュニティ
交流の手段にも分断の手段にもなりうる言語
普遍性と多様性を俯瞰的にとらえるグローバルな視点の確立

◆展開03：小林信一（広島大学副学長・人間社会科学研究科長）
痛みを伴った過去の物語を共有し受け継ぐ大学
人文学・社会科学がもつ批判性の維持
自立（伝統的価値）と迎合（社会貢献）のバランスを探る

◆展開04：白波瀬佐和子（東京大学大学院 人文社会系研究科教授）
暗黙の了解や役割期待を崩す「不自然な外圧」の必要性
ダイバーシティの根源としての他者感覚
一人一人の個別性を忘れない大きな枠組みの議論

チーム構築

●チーム構築件数(主要なもの)：6件

◆「よりよいスマートWEを目指して: 東アジア人文社会知から価値多層社会へ」 WS02 WS05 WS08
研究代表者：出口康夫（京都大学大学院文学研究科教授）
▶課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）に採択(2022.6.1~2028.3.31)

◆「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践」 WS02
社会基盤の包括的IT化と全体論的ELSI
研究代表者：出口康夫（京都大学大学院文学研究科教授）
▶戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)に採択(2021.10～2024.9)

◆「基礎理論とシステム基盤技術の融合によるSociety 5.0のための基盤ソフトウェアの創出」 WS01
研究代表者：山口弘純（大阪大学大学院情報科学研究科教授）
分担者：稲場圭信（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
▶ JST戦略的創造研究推進事業(CREST)に採択(2021.10～2027.3)

◆「科学技術知をめぐる南北問題」 WS06
研究代表者：標葉隆馬（大阪大学社会技術共創研究センター准教授）
*課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）に応募・不採択

◆「ビジネスと人権」 WS09 WS13
研究代表者：片柳真理（広島大学大学院人文社会科学研究科教授）
科研費・基盤B, 挑戦的萌芽も応募・不採択

◆「文化継承とひとびとの心のあり方」 WS09
研究代表者：桑島秀樹（広島大学大学院人文社会科学研究科教授）
深谷信介（ノートルダム清心女子大学教授）
民間助成金へ応募・不採択

◆「コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方」 WS04 WS07 WS12
研究代表者：大竹文雄（大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授）
WS07, 12により構築
▶課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）に採択(2023.7.1~2029.3.31)

共創の場とは

◆課題や論点に出会う「気づきの場」
様々な分野の研究者、さらには社会の様々なステークホルダーとの議論によって、各自がそれまで考えていなかった、あるいは言語化していなかった課題や論点に気づく場

◆課題や論点の意味を「深掘りする場」
論点を抽出し、整理し、精査し、組み合わせることによって課題や論点の意味を深掘りする場

◆新たな価値創造に向けて様々な人と出会い「つながる場」
課題や論点の気づきや深掘りを進める中で、新たな価値創造に向けて異質な人びととのつながりを深め、広める場

注）共創の場の構築と継続のためには、それぞれの担い手が「何のために（当該の）社会課題を解決するのか」、「何のために研究するのか」、「私たちはどこに向かうのか」という根本的な問いを続ける必要がある。←人文学・社会科学の役割

事業終了後の計画

◆ネットワークの構築と拡大
社会の様々なステークホルダーと「共創の場」を創り続け、ネットワークを拡大する

◆ワークショップの継続
「共創の場」のあり方・創り方を考えつつ、様々なテーマのもとでワークショップを開催する

◆言語化
「ありたい社会」および「共創の場」のあり方を言語化する

◇大阪大学（社会ソリューションイニシアティブ）の重点活動
大阪・関西万博 (2025)、SDGs (2030), Post SDGs (2030～)に向けて、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所とともに「いのち会議」を設立（2023年3月24日、議長は西尾章治郎大阪大学総長）。2025年に「いのち宣言」（Post SDGsに向けたアジェンダ）を策定・発信する中で上記計画を遂行する予定。